

第 44 回 SGRA フォーラム in 蓼科

## 21 世紀型学力を育むフューチャースクールの戦略と課題

プログラム

日 時：2012 年 7 月 7 日（土）10:00～17:00

会 場：東京商工会議所蓼科フォーラム研修室 A

（長野県茅野市豊平チェルトの森）

主 催： 国際フォーラム「21 世紀型学力を育むフューチャースクール」実行委員会  
共 催： 渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA：セグラ）  
助 成： 鹿島学術振興財団  
協 力： 東京商工会議所

### フォーラムの趣旨

SGRA「人材育成」研究チームが担当するフォーラム。

21 世紀の幕開けとともに各国で急激に普及し始めたインターネットと携帯電話などの情報通信手段は、今では私達の生活の中で欠かせない存在となりつつある。しかもその変化のスピードがますます速まり、膨大な量の情報が氾濫している。こうした背景の中で、知識の暗記よりも情報通信技術の習得とともに世界につながるネットワークとその中に集まる知識と情報を活用できる能力が重要視され、次世代を担う人づくりを目指す学校教育のあり方にも大きな変化が迫られている。

新しい時代への対応を図るべく、アメリカ、イギリス、韓国、シンガポールなどでは 90 年代の後半から教育情報化政策が推進され始め、近年には国家目標に設定され、より本格的な導入に向けた動きが具体化している。日本でも 1999 年に全公立小中高校がインターネットに接続でき、全公立校教員がコンピュータの活用能力を身につけられるようにする「ミレニアム・プロジェクト」がスタートし、2010 年からは総務省と文部科学省の推進のもと 2020 年までにフューチャースクールの全国展開を目指す事業も始動した。一方、新しい情報通信技術が次々開発されるにつれ、機械や機器には決して置き換えられないものがあることがますます鮮明になり、人間関係の大切さがより強調される中で生身の人間をもとにしたコミュニケーション能力が果たしてフューチャースクールで育成されうるかという懸念の声もある。

本フォーラムにおいては、世界最先端をいく韓国とシンガポールを中心にそれぞれの国の経験と現状について議論を交わす場を提供し、学びのイノベーションに関する理解と交流を深めつつ、フューチャースクールの今後の方向性について考えていきたい。

10:00-10:10

総合司会：金 範洙（国際交流振興協会理事長）  
開 会：今西淳子（SGRA 代表）

<p>10:10-10:50 【基調講演 1】</p>	<p style="text-align: center;"><b>次世代を担う人づくりとは</b></p> <p style="text-align: center;">赤堀 侃司（白鷗大学教育学部長）</p> <p>はじめに、メディアと学習の関わりを概観する。そこでは、メディアを道具として活用して教科の学習を促進する方向と、情報を正しく扱う能力をもった人間の育成の方向の2つが見られる。それは、パフォーマンスとコンピテンシーとも考えることができるが、車の両輪のように進展してきた。そのメディアの変遷は、教育課程の流れに対応していることを示す。OECDの国際学力比較調査であるPISAやPIACCなどのリテラシーの提案や、21世紀汎用スキル、社会人基礎学力や学士力などを参考にしながら、ここでは基礎的な知識と技能を核とした人間力をいかに高めるかに焦点化して、述べる。具体的な指導の在り方についても、述べる。</p>
<p>10:50-11:30 【基調講演 2】</p>	<p style="text-align: center;"><b>日本のICT教育の現状と今後</b></p> <p style="text-align: center;">影戸 誠（日本福祉大学教授）</p> <p>現在日本で取り組まれている「フューチャースクール」、「学びのイノベーション」などのプロジェクトについて述べる。またシンガポール、アメリカ、韓国の大まかな流れをとらえながら21スキルと日本のICT方向、とりわけ「協働」の考え方について述べて行く。「知識を貯めこむ銀行型」教育からコラボレーションを取り入れたICT教育の可能性について触れて行く。デジタルテキスト、クラウドなど教育コンテンツの現状についても報告していきたい。</p>
<p>11:30-12:00</p>	<p style="text-align: center;">コメント・質疑応答</p>
<p>12:00-13:30</p>	<p style="text-align: center;">昼 食</p>
<p>13:30-14:00 【発表 1】</p>	<p style="text-align: center;"><b>韓国のフューチャースクール構想</b></p> <p style="text-align: center;">曹 圭福（韓国教育學術情報院研究員）</p> <p>PISA 2009 DRAの検査結果、韓国は1位で日本は4位であるが、両国とも家庭と学校でのPCとインターネットの活用度は上位ではない。PISAのDeSeCoプロジェクトからICTを介し情報を相互的に活用する能力が抽出されている。韓国と日本の青少年はICTを介し情報を相互的に活用する準備はできているが、学校と家庭ではその準備が遅れているのではないかと。このような背景と疑問を持って、両国のフューチャースクールとデジタル教科書モデル学校などに関する政策の類似点と相違点を検討するとともに、両国のモデル学校の授業参観経験を踏まえ、試行錯誤と可能性についても述べ、皆様のご意見をいただきたい。</p>

<p>14:00-14:30 【発表 2】</p>	<p style="text-align: center;"><b>シンガポールの教育における ICT 活用の動向と課題について</b></p> <p style="text-align: center;">シム チュンキャット（日本大学非常勤講師）</p> <hr/> <p>90年代半ばから推進されてきたシンガポールの「Masterplan for ICT in Education」の流れと進化について概観したうえで、シンガポールにおけるフューチャースクールの選ばれ方とそれらの学校での取り組みを紹介しつつ、「教科書を使わない」という新しい学校のあり方への模索も含め、学校現場における ICT 活用への支援策、課題および最新動向を報告する。</p>
<p>14:30-15:00 【発表 3】</p>	<p style="text-align: center;">日本のフューチャースクールの現場から <b>ICT 機器を利活用した学習活動</b> ～「フューチャースクール推進事業」「学びのイノベーション事業」～</p> <p style="text-align: center;">石澤紀雄（山形県寒河江市立高松小学校）</p> <hr/> <p>1 「フューチャースクール推進事業」「学びのイノベーション事業」について 2 本校の取組 （高松小学校の概要） （1）教員の研修について （2）ICT 支援員の活動 （3）ICT 機器の効果的な活用について （4）成果と課題</p>
<p>15:00-15:30</p>	<p style="text-align: center;">休 憩</p>
<p>15:30-16:50</p>	<p style="text-align: center;">パネルディスカッション</p> <p style="text-align: center;"><b>21 世紀型学力を育むフューチャースクール</b></p> <p style="text-align: center;"><b>戦略と課題</b></p> <p style="text-align: center;">進 行：シム チュンキャット（日本大学非常勤講師） パネリスト：上記講演者</p>
<p>16:50-17:00</p>	<p>閉会の辞： 嶋津忠廣（SGRA 運営委員長）</p>

## 講師略歴

### ■ 赤堀 侃司 ☆ あかほりかんじ ☆ Akahori Kanji

白鷗大学理事・教育学部長・教授、(財) コンピュータ教育開発センター理事長、(社) 日本教育工学振興会会長、東京工業大学名誉教授、工学博士、1944年7月21日、広島県呉市生まれ、1969年3月、東京工業大学大学院理工学研究科修士課程を修了、その後、静岡県高等学校教諭、東京学芸大学講師、准教授、東京工業大学准教授、東京工業大学教授を経て、2009年4月から現職、教育工学、情報教育、学習とメディアなどを、研究分野としている。日本教育工学会前会長、著書は、教育工学への招待、授業の基礎としてのインストラクショナルデザイン、など、教科書は、高等学校「社会と情報」、「情報の科学」(東京書籍、編集代表)。

### ■ 影戸 誠 ☆ かげと・まこと ☆ Kageto Makoto

日本福祉大学国際福祉開発学部学部長、教授、日本教育メディア学会理事、教育工学協会理事、1951年6月、広島県呉市生まれ、博士(情報学)、研究テーマ:教育におけるICT活用「国際協働学習に連携した授業設計とICT活用に関する研究」文部科学省科研費、国際的な学習環境での英語活用のあり方と異文化理解、コミュニケーションを促進するICT活用を研究。2009「教科書(英語)の質・量改善推進事業委員、2007-2008先導的教育情報化推進プログラム委員、2010-2012総務省「フューチャースクール・プロジェクト」「文部科学省学びのイノベーション」東海地域担当 2011

「デジタル教科書の質・量改善推進事業委員」、教科書「見てわかる社会と情報」(日本文教出版)、「実践プレゼンテーション」日本文教出版、実習「情報基礎」(インプレス)教育エッセイ「ほんもののかず」(JDC) など

### ■ 曹 圭福 ☆ ちょう・きゅうぼく ☆ Kyubok Cho

韓国教育學術情報院政策研究部研究員、韓国梨花女子大学非常勤講師、韓国教育心理学会運営委員、日本教育工学会員、教育学博士、1972年6月韓国生まれ、韓国弘益大学教育学部卒業、東京外国語大学大学院地域文化研究科と東京大学大学院教育学研究科を経て、2008年広島大学大学院教育学研究科修了(教育学博士)、2008年4月から現職、研究テーマ:ICT活用教育(デジタル教科書の学習効果、韓国のサイバー家庭学習の利用実態、SNS活用教育、教育情報化政策、コンサルティングなど)。

### ■ シム・チュンキャット ☆ Sim Choon Kiat ☆ 沈 俊傑

シンガポール教育省・技術教育局の政策企画官などを経て、2008年東京大学教育学研究科博士課程修了、博士号(教育学)を取得。日本学術振興会の外国人特別研究員として研究に従事した後、現在は日本大学、日本女子大学と昭和女子大学の非常勤講師。SGRA 研究員。

著作に、「論集:日本の学力問題・上巻『学力論の変遷』」(山内乾史・原 清治編著)

『高校教育における日本とシンガポールのメリトクラシー』第23章(日本図書センター) 2010年、「選抜度の低い学校が果たす教育的・社会的機能と役割」(東洋館出版社) 2009年など。

#### SGRAとは

SGRAは、世界各国から渡日し長い留学生生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化にたちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGRAは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。良き地球市民の実現に貢献することがSGRAの基本的な目標です。詳細はホームページ ([www.aisf.or.jp/sgra/](http://www.aisf.or.jp/sgra/)) をご覧ください。

#### SGRAかわらばん無料購読のお誘い

SGRAフォーラム等のお知らせと、世界各地からのSGRA会員のエッセイを、毎週水曜日に電子メールで配信しています。SGRAかわらばんは、どなたにも無料で購読いただけます。購読ご希望の方は、ホームページから自動登録していただけます。